

環境教育



学校教育における環境教育

守谷市教育委員会

【国際的視点】 地球環境会議 ベオグラード憲章 アジェンダ 21 京都議定書 コペンハーゲン合意	【目 標】 環境問題に関心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力を育成する。
【県教育指導方針】 環境教育の充実 <三つの視点> 「環境から学ぶ」 「環境について学ぶ」 「環境のために学ぶ」 【関係法令】 環境基本法 環境基本条例 学習指導要領	【具体的視点】 関 心 ：全環境とそれにかかわる問題に関する関心と感受性を身に付けること 知 識 ：全環境とそれにかかわる問題及び人間の環境に対する厳しい責任や使命についての基本的な理解を身に付けること 態 度 ：社会的価値や環境に対する強い感受性、環境の保護と改善に積極的に参加する意欲などを身に付けること 技 能 ：環境問題を解決するための技能を身につけること 評価能力 ：環境状況の測定や教育のプログラムを生態学的・経済的・社会的・美的その他の教育的見地にとって評価できること 参 加 ：環境問題を解決するための行動を確実にするために、環境問題に関する責任と事態の緊急性についての認識を深めること

	小学校	中学校・高等学校
ね ら い	児童が身近な環境に意欲的にかかわり、問題を見だし、考え判断し、よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度を育てること ① 豊かな感受性を育成すること ② 活動や体験を重視すること ③ 身近な問題を重視すること	環境問題の解決は、人類共通の課題であり、他人事ではなく自分自身にも関係があることを理解し、積極的に環境に働きかける態度を育てること
身に付けたい能力と態度	① 環境に対して積極的にかかわったり、環境を思いやったり、よりよくしようとする関心や意欲、態度など ② 環境とかかわり、それについて考えたり、判断したりする思考力や判断力、及び表現力など ③ 環境にかかわって課題を見付けたら、解決したり、創造したりするために必要な知識・理解や技能など	① 問題解決能力 ② 数理的能力 ③ 情報処理能力 ④ コミュニケーション能力 ⑤ 環境を評価する能力 ⑥ 自然や社会事象に対する関心、意欲、態度 ⑦ 主体的思考 ⑧ 社会的態度 ⑨ 他人の信念、意見に対する寛容



学校全体での取組み	各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間での実践 ・自然体験や社会体験活動の積極的導入 ・各教科等の環境教育関連単元の指導計画の作成 ・道徳「主として自然や崇高なものとかかわりに関すること」 ・外部人材等の積極的活用 ・総合的な学習の時間・・・各学校の創意工夫
学校教育、家庭教育、社会教育の連携	地域社会の自然探索会や美化活動等への積極的参加の推奨
発達段階に応じた体系的な教育	「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点による位置付け
地域の実態に応じた取組み	「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、足元から行動する）

環境教育

守谷市立大井沢小学校 担当 久保宮 修子

1 はじめに

本校での環境教育の具体的な取り組みとして、一つ目は各教科，特別活動など総合的な活動の時間への位置づけを明確にして，その中で充実を図ること，二つ目は自然体験などを通して環境に対する豊かな感性を育成することである。

この目標のもとに，環境教育を実践してきた。



2 実践

(1) 学校美化活動

ア 美化活動

学年花壇での草花の栽培，除草，整備

イ 大掃除週間の設定・実施（学期末）

ウ 学年奉仕作業

(2) 児童会活動

ア 縦割り班による清掃活動「こぶしタイム」・クリーン作戦 【愛校奉仕作業】

イ 園芸委員会「学校花壇や草花のプランターの整備」

ウ 飼育委員会「ウサギや魚の飼育」

エ 保健委員会「流しやトイレの清掃点検」

オ 広報委員会「正門掲示板予定表作り，ポスター掲示と撤去」

カ 給食委員会「配膳台の整理整頓，ポスター作り」

キ ボランティア委員会「緑・赤い羽根募金活動（ポスター，手紙による啓発活動）」

「落ち葉はき清掃活動」

「ペットボトルのキャップ回収」

「複十字シール，はがきの募金呼びかけ」



【ペットボトルキャップ回収】



【トイレ清掃点検】



【赤い羽根募金活動】

(3) 環境教育の啓発

ア 愛農活動「野菜や草花の栽培」

イ 各種作品募集への参加

ウ 教室や図書室の整備，自由研究作品の掲示

(4) P T A活動

ア 年4回の除草作業（P T A整備部，職員，児童参加）

イ 円形花壇の整備

ウ ベルマーク集め（各教室にベルマーク箱の設置，回収，集計）

エ 使用済みカートリッジの回収

オ 書き損じはがきの回収



【書き損じはがき・使用済みカートリッジ回収】

(5) 国語科, 生活科, 理科, 社会科, 総合的な学習の時間における取り組み

学 年	教科・領域	学 習 内 容
第1学年	生活科 *OHL=大井沢 ヒューマンライ ブラリー (人材 バンク) 国語科	<ul style="list-style-type: none"> 一人一鉢での栽培と観察 (アサガオ、チューリップ) 野菜の栽培と観察 (なす、ミニトマト) 校庭, 四季の里公園での植物や昆虫などの観察・ふれあい (季節ごとに) 落ち葉や木の実を使った制作とお店屋さん 小動物とのふれあい (東武動物公園にて) 昆虫の飼育, 観察, ネーチャービンゴゲーム 国語科「わたしのはっけん」学校のウサギを観察して, 作文を書く
第2学年	国語科 生活科	<ul style="list-style-type: none"> 夏野菜の栽培 さつまいもの栽培 (植え付け, 除草, 収穫) 学区探検 (OHLを活用して) 校庭での植物や昆虫などの観察・ふれあい バター作り体験 (食育を通して) 「ビーバーの大工事」を通して生き物の生態や環境を考える
第3学年	理科 社会科 総合的な学習の時 間	<ul style="list-style-type: none"> モンシロチョウの観察 オクラ, ひまわり, ホウセンカの観察 大井沢の植物・鳥・虫についての体験活動 (GTの活用)
第4学年	総合的な学習の時 間 社会科 理科 国語科	<ul style="list-style-type: none"> 常総環境センター, 上下水道見学 生き物を調べよう (年間を通して) いろいろな環境を守る工夫について調べよう
第5学年	総合的な学習の時 間 社会科 理科 国語科	<ul style="list-style-type: none"> 立沢湿地内 (田んぼ) での米作り体験 自動車を作る工場 わたしたちの国土と環境 インゲン豆, とうもろこし, 大根, にんじんの栽培観察 森林のおくりもの
第6学年	理科 家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 生き物のくらしと環境, ジャガイモの栽培・観察 近隣の人との生活を考えよう 「つくろう さわやかな生活」季節に合うくらし, 快適な住み方について話し合おう 「わたしたちの未来について (環境問題)」の討論 環境についてのポスター作成 リサイクル, 鬼怒川絵画コンクール作品作成

3 考 察

- ・OHLに協力してくださる地域の方, GTの方や保護者の方々と共に活動することにより, 身近な自然との関わり方や自然の大切さ, 素晴らしさを知り, 楽しく積極的に活動することができた。
- ・低学年では, 動植物とのふれあいを通して, 自然に親しみ, 身近な自然を大切にしようとする心情が育ち, 中・高学年では, 地域の人々とおふれあいを通して, 環境を守るために自分たちができることを真剣に考えていく態度が育ってきている。

4 課 題

- ・効果的な体験活動ができるように, 地域や児童の実態に応じた年間指導計画の見直し, 身近な自然や地域の環境を活用した教材開発, 人材発掘を行い, よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図りたい。

環境教育

守谷市立大野小学校 担当 大澤 恭子

1 はじめに

本校では、環境教育の充実のため、計画的に実践活動を行ってきた。学年の発達段階に応じて体験活動を積み重ねることで、生き物や自然を大切にする態度や、身近な環境をよりよいものにしていこうとする態度を育てるようにしている。

本校の環境教育のねらい

- ・身近な環境の様子や問題等に関心をもち、環境に対する豊かな感受性を育てる。
- ・児童の発達段階に即して、環境問題等を改善しようとする態度や心情を育てる。
- ・草花の栽培や、動物の飼育活動を通じて、実践する力と意欲を育てる。

2 実践

(1) 学校全体での取り組み

① 児童会活動

委員会活動を中心にウサギ、烏骨鶏等の飼育活動を行う。また、清掃活動、除草活動を計画し、実践する。

② 環境に関する啓発活動

教室、廊下に環境に関する作品を掲示。各種作品募集やポスター等を掲示し、応募を呼びかける。図書室や学級文庫に環境問題に関する書籍を置く。

③ PTA 活動

- ・ベルマークを集め、備品を購入する。
- ・校内奉仕作業（年1回）

④ サツマイモ・米の栽培

学年ごとにサツマイモや米を育て、秋の収穫祭で焼き芋や餅にして食べる。

(2) 各学年での取り組み

① 1年生

- ・アサガオの栽培と観察（生活科）
- ・落ち葉を使った作品づくり（生活科）
- ・稲の種まき（生活科）

② 2年生

- ・ミニトマトの栽培（生活科）
- ・クロネコヤマトの出前環境教室（生活科）
- ・ららぽーと柏の葉でリサイクルについての学習（生活科）

- ③ 3年生
 - ・モンシロチョウの観察（理科）
 - ・オクラの栽培と観察（理科）
 - ・カスミストアの見学（社会）
 - ・脱穀（総合）
- ④ 4年生
 - ・ツルレイシの栽培と観察（理科）
 - ・常総環境センターや上下水道事務所の見学（社会）
 - ・米作り…種まきから収穫まで「大野小協力の会」の方々の指導を受けながら、半年かけて体験する。（総合）
- ⑤ 5年生
 - ・インゲン豆の栽培と観察（理科）
 - ・田植え（総合）
 - ・地域のクリーン作戦（総合）
- ⑥ 6年生
 - ・ジャガイモの栽培と観察（理科）
 - ・稲刈り，おだがけ（総合）



3 考察

- ・児童一人一人が身近な自然の中で活動することにより，自然の大切さを実感することができた。
- ・サツマイモや米を収穫し，食べることにより，自然を見直し大切にしようとする態度が育った。

4 課題

地球環境にも目を向け，自分たちにできることを考え，実践していく態度を育てたい。

環境教育の実践

守谷市立高野小学校 担当 藤田 麻理

1 はじめに

本校では、身近な自然環境に触れ、感じる体験を通して自然環境に対する興味・関心を高め、自分と自然環境の関わりについて考える力を育成することをめあてとして、環境教育を進めてきた。特に、体験的な活動や問題解決的な学習を多く取り入れ、各教科、特別活動、総合的な学習の時間などを通して取り組んできた。

2 実践

(1) 学校全体での取り組み

ア 美化活動

- ・愛校作業
- ・学年ごとの除草作業
- ・全校クリーン作戦

イ 栽培活動

- ・さつまいもの植え付け、収穫。
- ・各学年での花壇の活用
(生活科、理科、総合学習教材)

ウ 飼育活動

- ・飼育委員会によるコジュケイ、
金魚の飼育活動



愛校作業



新しい仲間、コジュケイです



新しい畑もおいもがたくさん！

ウ 児童会活動

- ・新設された飼育委員会によるコジュケイ、金魚の飼育活動。
- ・栽培委員会を中心とした学校緑化活動による植物の栽培。
- ・ボランティア委員会によるアルミ缶、ペットボトルキャップの回収
緑の羽根募金で頂いた樹木と花苗の移植
- ・整備委員会による秋季の落ち葉掃き。
- ・野外活動クラブでの自然体験活動



高野小緑化活動



コジュケイの世話



エコキャップの回収

(2) 各学年での取り組み

ア 低学年

- ・一人一鉢栽培
1年アサガオ、チューリップ、2年ミニトマト
- ・収穫の楽しさを味わう活動（2年）
ナス、キュウリ、ミニトマト、サトイモ、落花生、ピーマン、シソ
- ・季節を感じる活動（1・2年）
公園へ行こう、ザリガニ釣り、イナゴ取り

イ 中学年

- ・理科の植物栽培
3年ホウセンカ、オクラ、キャベツ
4年ツルレイシ
- ・高野史跡めぐり（4年）
地域のボランティアの方の指導による歴史探検



ザリガニ釣り



イナゴ取り



高野史跡めぐり

ウ 高学年

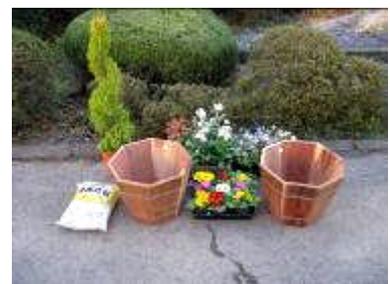
- ・高野土地改良区の皆さんの指導による田植え、稲刈り体験（5年生）
- ・栽培委員会を中心とした花壇・プランターの整備
- ・ボランティア委員会によるペットボトルキャップの回収、緑の羽根募金の花木の移植
- ・整備委員会、6年生を中心としたボランティアによる校内落ち葉掃き（海禅寺側）



田植え体験



きれいな花をさかせよう！



緑の羽根募金で頂いた草花

3 考察

低学年では、恵まれた学校周辺の環境を生かし、生活科の学習を中心に野菜や植物の栽培活動や身近な公園・田んぼへの探検を通して、実際に自然にふれ、自然に親しむ態度が育ってきている。

中学年の史跡めぐりや高学年の田んぼ体験など、総合的な学習の時間を中心に高野地区のボランティアの方々に協力を頂いた活動を取り入れることができた。

秋季では、環境委員会や6年生を中心とした自主的なボランティア活動による落ち葉掃きが行われ、ボランティア精神を育むことができた。

児童会活動では、飼育委員会が新設され、各委員会ごとに子どもたちの活動を中心に学校の環境を整備することができた。

4 課題

- ・新学習指導要領と照らし合わせ、高野小学校の豊かな自然を活用した身近な教材を取り入れる。
- ・地域の専門家やボランティアの方々、保護者と連携し、さらに多様な活動を取り入れる。

環 境 教 育

守谷市立守谷小学校 担当 澁佐 治香

1 はじめに

本校の周りは、宅地造成が進んでいるが森林公園や城址公園など豊かな自然も残っている。しかし、学校の新築工事が始まり、第二グラウンドが使用できなくなったり、校庭の使用が制限されたりし出した。限られた環境の中で各教科・領域の活動を通して環境について学んでいる。また、地球のためにエコ活動にも取り組んでいる。

2 実践

(1) 学校全体の取り組みについて

グリーンタイム		・全校児童で行う、校内除草作業、学年の分担箇所の除草、ごみ拾い	
委員会活動	ボランティア	・手足の不自由な子どもを育てる運動（友情の絵はがき） ・緑の羽根募金活動、赤い羽根募金活動 ・エコキャップ運動（お昼の放送や各クラスに実際に行き行って呼びかけ）	
	栽培	・花壇の管理（除草、水やり） ・パンジー、サルビア、マリーゴールド植え ・落ち葉掃き	
	整備	・校内除草・落ち葉掃き活動 ・ごみ拾い ・各学級の掃除用具入れの中の点検（お昼の放送で点検報告）	
ボランティア活動		・八坂神社境内の落ち葉掃き活動	
その他		・有志による森林公園クリーン作戦（5，6年生）	

(2) 各学年の学習での取り組みについて

学 年	教科・領域	学 習 内 容	
第1学年	生活科	・一人一鉢（アサガオ、チューリップの栽培） ・校内探検（春、秋、冬をさがそう） ・森林公園探検 夏・秋（虫や草花と遊ぼう） ・小動物とのふれあい（校外学習東武動物公園）	
第2学年	生活科	・ミニトマト、ナス、キュウリ、ニンジン、枝豆、ピーマン、カボチャ、ゴーヤ、オクラ、二十大根の栽培。 ・城址公園での生き物さがし ・自然博物館展示見学 ・自然博物館化石掘り体験	
第3学年	総合的な学習 社会 理科	・見つけよう！守谷のひみつ（学区探検、守谷駅、図書館、市役所、小さな鳥の資料館、モコバス、大型店、公園の動植物、歴史コンビニエンスストア、八坂神社について） ・校外学習（アサヒビール工場、消防署、スーパーマーケットなどの見学） ・モンシロチョウ観察と飼育 ・オクラ、ホウセンカの観察と栽培	
第4学年	総合的な学習 社会科 理科	・キッズミッションへの取り組み（実践例あり） ・校庭のごみ拾い ・環境に関する新聞作り ・水道事務所見学 常総環境センター見学 ・ツルレイシの観察と栽培	

学 年	教科・領域	学 習 内 容
第5学年	総合的な学習 国語科 社会科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・研究「地球のためにできること」米作りを通し、地球人として環境を考え生きる力を養う。 ・八坂神社の清掃 ・バケツ稲 ・森林のおくりもの ・わたしたちの国土と環境 ・インゲンマメ 
第6学年	総合的な学習 社会科 家庭科 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化、酸性雨、砂漠化、森林の減少など自然環境に関わる内容についてウェブページ、書籍などを使って調べ、スタディノートにまとめた。 ・自然と生き物の関わり新聞発行「わたしたちの生活と環境」 ・環境新聞発行「地球の環境を守ろう」 ・自分ができることを見つけてやってみよう（生活から出るゴミ、排水を少なくしよう） ・ジャガイモの栽培 

(3) 実践例

第3学年 見つけよう！守谷のひみつ (総合的な学習)

社会科の学習とリンクさせ、学区探検によって生まれた課題を追求するために、市役所や図書館、守谷駅などの公共施設や大型商業施設、八坂神社などを見学した。そこで分かったことをパネルにまとめ、発表した。

インタビューや資料集めを通して情報収集能力が高まり、発表を通して表現力が身についてきた。また、守谷を大切にしようという気持ちが生まれてきた。



第4学年 キッズミッションへの取り組み

「身近な環境に目を向けよう」というテーマでゲストティーチャーを招き、今自分たちの身の回りで起こっている環境問題について話を聞いたり映像を見たりした。さらに親子でカルタ取りとエコへの103人宣言を行い身の回りの環境へ目を向ける時間となった。そして、自分たちができることを考え、身近な環境問題について調べてパネルにまとめた。



3 考察

低学年では、生活科の学習を通して、身近な自然に目を向かせる言葉かけを継続することで自分から進んで自然のすばらしさを感じたり発見したりすることができた。中・高学年では、総合的な学習や様々な教科を通して、ゲストティーチャーや校外で働く方々の話を聞くことができた。環境について体験したり調べてまとめたりする学習を機に、自分たちができることを考え実践につなげることができた。また、地域を知ることによって地域への愛着が深まった。

4 課題

- ・学校の新築工事に伴い、限られた環境の中でも環境教育に力を入れていくことを意識する必要がある。発達段階に応じた系統的な学習内容や学習活動になるように計画の見直しが必要である。
- ・地域や各機関との連携を図り、地域に対する愛着心を深めたい。
- ・地球の環境を保全するために、自分たちが実践する環境教育にも力を入れていきたい。

環境教育の実践

守谷市立黒内小学校 古谷 洋子

1 はじめに

本校では、「環境教育の全体計画」をもとに、各教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等、学校の教育活動全体を通して、環境教育に取り組んできた。本校は土塔森林公園に隣接し、教室や運動場からはいつでも公園の木々や野鳥を観察できる環境にあり、守谷市の「里親事業」の一環としても公園と深い関わりをもっている。また、「食育」の研究に継続して取り組んでおり、学校内の畑や田んぼといった食育環境の整備にも力を入れてきた。今年度、本校では下記のような実践を行った。

2 実践

(1) 土塔森林公園へのかかわり

ア 4年生による山ゆりの保護活動

市の花、山ゆりを保護している市の団体「山ゆりの会」の方々と共に、季節ごとに山ゆりを保護する活動を行った。春には、群生している山ゆりの周囲を棒やひもで囲い、秋には支柱をはずしたり、落ち葉を集めたりした。



〈保護活動〉

イ 公園クリーン作戦

土塔森林公園は、生活科や理科の学習の場になったり、持久走大会のコースとして走ったり児童にとっては、親しみのある場所になっている。年間を通して1年生から6年生の庭掃除の児童が清掃の時間に、ゴミ拾いや落ち葉掃きなどの清掃活動を行ってきた。この活動により児童は森林公園をより身近に感じ、学校の一部という気持ちが育まれている。



〈公園内の看板〉

ウ 愛鳥モデル校

これまで、愛鳥モデル校の活動の一環として、希望者を集め「野鳥クラブ」を設立し、学校周辺に生息する野鳥の観察を行ってきた。

今年度は6年生を中心に結成し、本校学区にある長龍寺敷地内の雑木林に営巣するタカ科のツミの継続観察を行った。5月から9月にかけて週1回の割合で観察を実施し、孵化から幼鳥の成長、巣立ちまで観察することができた。また、その観察結果や考察をまとめ、校内で全校児童対象に発表するとともに、千葉県我孫子市で開催された「ジャパン・バード・フェスティバル2010環境学会」で観察の成果を報告した。

黒内まつりでは、前校長によるアルソミトラ飛行物体製作の体験活動を行い、鳥の飛び方について学ぶ機会を設け、児童の興味・関心を喚起する試みを行った。



〈観察したツミの幼鳥〉



〈学会発表〉



〈アルミトラ飛行物体製作〉

(2) 田んぼ作り

「学校の中で黒内米作りに挑戦しよう。」というテーマを掲げ、5年生が田んぼ作りに取り組んだ。地域の方の協力を得て4月から田植えや草取り、稲刈り、おだかけ、脱穀と体験を積み上げた。3学期には、黒内米を使った調理を予定している。長期にわたる栽培活動によって収穫した米を食べることにより、米の大切さを深く味わうことができると思われる。また、稲の成長を見守り、関わる中で田んぼの中のヤゴやオタマジャクシ、更に周辺に集まってくる昆虫類も、楽しみながら観察することができた。



〈田植え〉



〈稲刈り〉



〈もみすり〉

(3) 衣食に役立つハーブ・綿花

6年生の「総合的な学習の時間」では、「暮らしに役立つ植物のひみつ」という学習テーマで、綿花やハーブの栽培・体験活動を通して、身の回りの生活環境に関心をもたせ、課題を設定・解決していく学習を行った。綿花栽培では、綿を収穫した後、外部講師を招聘しての「糸つむぎ体験」や校内の植物による「草木染め体験」、作った糸を使っての機織りまで行い、その経験をもとに植物や自然環境に関する課題設定を行った。



〈収穫した綿〉



〈糸つむぎ講習会〉



〈ハーブ栽培〉

(4) 畑での作物の栽培

「食に関する指導」の一環として、自分たちで作ったものを自分たちで調理して食べるという活動の充実を図ってきた。季節に応じて、常に畑に野菜等が栽培され、観察、収穫、試食を各学年で行ってきた。

1年生…サツマイモ

2年生…ミニトマト、なす、ピーマン

3年生…枝豆、インゲン、トウモロコシ

4年生…ソバ

5年生…米

6年生…ハーブ、綿花

3 考察

「自然を楽しみ、自然を大切にしたい。」という思いは、豊かな自然環境により多くかかわりをもたせることで育まれていこうと考え、指導を行ってきた。森林公園での自然観察や清掃活動を通して、多くの児童が自然に興味をもち、自然に親しむ態度が育ってきたように思える。畑の作物を大切に育て、成長を心待ちにする姿や収穫した作物を調理して深く味わう様子も見られ、本校の環境教育の中心である「食育」で目指した「本物の体験を重ねる」ということを実践してきた成果であるといえる。また、今年度は綿花から糸を作ることができるという自然の不思議さ、素晴らしさを体験し、環境に対する意識の高まりを感じることができた。

4 課題

- (1) 地域や各機関との連携を図った、ゲストティーチャーの活用
- (2) よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成

環境教育の実践

守谷市立御所ヶ丘小学校 担当 大塚 和浩

1 はじめに

本校では、環境教育の充実を重点に計画的に実践活動を行ってきた。ねらいを明確にし、体験的な活動を積み重ねることで、生き物や自然を大切にする態度や身近な環境を自分たちの生活と結びつけて見つめよりよくしていこうとする実践的な態度の育成をめざしている。

本校では、環境教育を以下の目標で実践している。

- (1) 自然環境や人に対する思いやりの心を育て、環境について自ら課題を見つけ、自ら考え、進んで環境に働きかけようとする態度を育成する。
- (2) 人と環境との関わりについての自然体験、生活体験の場を設定し、様々な発見の中から好奇心を高め、創造力の基礎を育成する。
- (3) 環境保全をめざす循環型社会システムを形成する消費者の一員として、環境に優しい商品選択や意志決定能力を育成する。
- (4) 児童の関心や生活体験を軸にして、問題解決のための課題や方法を見いだす能力を育成する。

2 実践

(1) 学校全体での取り組み

① 親子除草作業

- ・ 校庭の除草作業

② 各学年での活動

- ・ 学校花壇、学年花壇の草花の栽培と除草作業
- ・ さつまいもの栽培に関わる作業と収穫活動
- ・ 3～6年生による校庭と街路樹周辺の落ち葉掃きボランティア



〈2年生の落花生掘り〉

③ 委員会活動（環境教育に関するもののみ）

- ・ 園芸委員会・・・学年花壇作り準備、学校花壇作り
種まき、移植、水かけ、土作り、草取り

(2) 各学年での取り組み

① 1年生

- ・ アサガオ、チューリップの栽培と観察
- ・ 菜の花の栽培
- ・ 立沢公園での自然に親しむ活動

② 2年生

- ・ いろいろな野菜の栽培収穫と観察
- ・ 春や秋の町探検での自然観察
- ・ 落花生の栽培

③ 3年生

- ・ オクラの栽培
- ・ しいたけ栽培
- ・ モンシロチョウの飼育



〈3年生のしいたけ栽培〉

④ 4年生

- ・ ツルレイシの栽培と収穫
- ・ しいたけ栽培
- ・ 常総環境センターや浄水場の見学
- ・ 環境問題についての調べ学習



〈4年生 浄水場の見学〉



〈5年生 田植え活動〉

⑤ 5年生

- ・ 「里山における3校合同の米作り」活動への参加
- ・ 収穫した米を使っての飯盒炊飯
- ・ 食の大切さについて考え、まとめる学習



〈5年生 飯盒炊飯〉

⑥ 6年生

- ・ ジャガイモの栽培と観察
- ・ 環境やエネルギーについての学習

3 考察

児童一人一人が環境に関わる身近な活動を通して、自然に親しんだり、身近な自然を大切にしようとする態度が育ってきている。低学年では自然の美しさや豊かさを感じる心情を、高学年になると自分と環境との関わりを真剣に考えていく態度が養われていった。また、環境を守るために自分たちにできる活動を考えることができた。さらに野外活動など直接的な体験がもっと必要だと思われるので、今後は様々な活動にゲストティーチャーなどを招いて、広がりのある体験活動を計画していきたい。

4 課題

- (1) 効果的な体験活動を取り入れた年間指導計画の見直しと具体的実践活動の工夫
- (2) 教科、総合的な学習の時間、道徳、特別活動と環境教育との関連の明確化と教材の開発
- (3) 直接的な自然体験の実施や環境問題に取り組む専門家や地域の人々などのゲストティーチャーの活用

環境教育

守谷市立郷州小学校 担当 鈴木 幸枝

1 はじめに

本校では、環境教育を以下の目標で実践している。

- (1) 環境とそれに関わる問題に気付き、関心を持つとともに、環境保全のために必要な知識・技能・実践する態度を育てる。
- (2) ボランティア活動や特別活動などの体験を通して、環境保全に関しての実践活動力を身に付けさせる。
- (3) 道徳教育や各教科との関連を図り、地域の環境や校外学習での体験を通して、自然の美しさや偉大さを知り、自然を愛する豊かな心を育てる。

2 実践

(1) 学校美化活動

①美化活動

・校内にある花壇での草花栽培、除草、整備

②郷州ピカピカ大作戦

・学級ごとに、毎学期末の大掃除週間

③各教室・通路の環境整備

・各学年で行った環境に関する学習の振り返り等をパネルにまとめ、各教室や通路、サポータールーム・会議室等に掲示

④教科に関連した活動

・各教科に、環境に関する内容がある。その発展として環境活動を行う。
・4年生の「総合的な学習の時間」で、環境を取り上げている。

(2) 委員会活動

①計画・ボランティア委員会

緑の羽根募金、複十字シール、友情のはがきの募金呼びかけ、使用済みカートリッジ回収、ベルマークの回収・整理

②飼育委員会 うさぎ、くじゃくの飼育

③掲示委員会 月の行事予定表作り、ポスターの掲示と張り替え

④栽培委員会 季節の草花の栽培と、プランター作り



〔キッズ活動・クリーン作戦〕

(3) 縦割り班活動

①ロング昼休みを利用して、5月、10月に校庭や学校周辺の道路清掃を行った。45分間の清掃にも関わらず上級生をリーダーとして縦割りキッズ班で意欲的な活動ができた。

②校外にある畑においてさつまいもの栽培・除草収穫に全児童で取り組んだ。実体験を基にした活動によって、さつまいもの特徴や手作りの良さを味わうことができた。



〔サツマイモの苗植え〕

(4) PTA活動

①昨年度に引き続き、環境整備委員会やPTAの協力のもとに、校内の廊下や階段に全学年の算数に関するクイズや、文学関連の掲示物を作成・掲示している。

②ベルマークの回収・集計

各教室にベルマークの箱を設置し、月1回収・集計している。

(※この活動は、児童による計画・ボランティア委員会と協力し実施)



〔サツマイモの収穫〕

(5) 地域交流

公園里親事業として学校隣のみずき野中央公園に、サルビアやパンジーの花を植えたプランターを育て設置した。栽培委員のボランティア活動として実施され、地域の

環境美化と交流を促進し、植物を大切に作る心を育てることができた。

(6) 学習活動

*各学年が各教科にわたり、様々な環境に関する学習に取り組んだ。以下は各学年の学習活動の一例である。

学 年	教 科	活 動 内 容	地域・サポーター等 機関連携
1 学年	生活科 図 工	・アサガオを育てよう ・学校探検 ・アサガオのリースを作ろう ・秋の落ち葉で小物作り	・保護者 58名
2 学年	国 語 生活科	・野菜を育てよう ・町探検で絵地図作り ・学校の春夏秋冬をみつけよう	・スクールサポーター 10名
3 学年	図 工	・町探検をしよう ・野鳥観察会	・保護者 15名 ・ゲストティーチャー 6名
4 学年	総 合	・《見つめよう！地球のためにできること》をテーマに環境についての個人テーマの追究とレポート作成及び新聞作り ・親子でゴミを仕分けよう。	・保護者50名
5 学年	家庭科	・「身の回りの整理整頓をしよう」で、不要なものを持ち寄り、フリーマーケット実施。 ・片付けに役立つ小物類を、空き缶などの資源ゴミで作成、活用	・保護者4名
6 学年	家庭科 総 合	・いらない服を利用した服のリフォーム ・バケツでの稲作り ポリバケツを利用し、種まき・栽培・収穫・粃すりを行い、おにぎりを作り試食した。 (5年も同内容で実施)	・J A 参考資料 種の協力 等

3 考 察

- (1) 各学年が各教科との関連を図り、単元の内容及び発展学習として環境学習を行うことができ、自然に感謝する心を育むことができた。
- (2) 地域の自然、人々との出会い、触れ合いなど、身近な事柄から学習することで、地に足がついた学習ができています。
- (3) 学校の周囲における縦割り班活動の一環として行ったクリーン作戦では、異学年との交流を図り活動ができた。
- (4) ゲストティーチャーや地域サポーター、保護者の方々との活動を多く持つことにより、活動に広がりを持った。特に、スクールサポーターによる授業の支援、環境整備の活動には、頭が下がる。

4 課 題

- (1) より良い環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図る。及び身近な自然に対する興味関心を高める手立てを考える。
- (2) 教科、道徳、特別活動と環境教育の関連を明確にし、各学年ごとの内容のつながりや効果的な学習形態の工夫を考える。
- (3) 地域や各機関との関連を図り、より充実した環境整備を図る。

環境教育の実践

守谷市立松前台小学校 担当 小林 道子

1 はじめに

本校では、環境教育を以下の目標で実践している。

- (1)身近な地域の自然や教育力を生かしながら、体験活動を通して環境問題への関心を高める。
- (2)自分と環境の関わりについて考え、環境保全に関する知識と態度を育てる。
- (3)美化活動、奉仕活動への積極的な参加を通して実践力を育てる。

2 実践

(1)学校全体での取り組み

ア美化活動

- ・学校花壇，学年花壇での草花の栽培・除草
- ・学期末大掃除



イ児童会活動

- ・ボランティア委員会による花の栽培，季節の花のプランター作り，土作り，除草，花摘み，守谷市公園里親事業への参加（街路樹への花の植え付け，除草，水かけ）
- ・飼育委員会による小動物の飼育
- ・サツマイモ栽培
- ・縦割り班による清掃活動
全児童を42班に分けての学校全体の清掃
- ・ボランティア委員会によるリサイクル活動（ペットボトルのキャップ回収）



(2)学習活動における取り組み

ア低学年（生活科）

- ・サツマイモ，トウモロコシの栽培（1・2年）
- ・草花の栽培（1年）
アサガオ，チューリップなど
- ・野菜の栽培（2年）
ナス，ミニトマト，ピーマンなど
- ・近隣の公園での木や虫，鳥の様子の観察（1年）
- ・木の葉や木の実で作品作り（1年）
- ・町探検での公園探索（2年）



イ中学年

- ・オクラの栽培（3年・理科）
一人一人が種まき発芽から成長の様子を見守った。収穫したオクラは，家に持ち帰りそれぞれの調理方法で味わった。
- ・「自然発見（大山新田）」（3年・理科）
野鳥の会の方をゲストティーチャーとして招き，10月に野鳥についての観察会を行った。自然の中に生きる野鳥の様子を進んで調べることができた。



- ・ヤゴの飼育（3年・理科）
プール掃除の際、ヤゴを採集・飼育し、羽化するまで観察を続けた。
- ・モンシロチョウの飼育（3年・理科）
各自が卵を採集し、羽化するまで観察を続けた。
- ・水道事務所、ごみ処理場見学（4年・社会科）
どのように水をきれいにして飲み水をつくるのか、また、私たちが出すごみは、どのように処理されているか見学やインタビューを通して学ぶことができた。
- ・浄化センター見学（4年・社会科）
薬品を使わず、微生物によって汚れた水が浄化されていく過程を学んだ。川の水を守ろうと働く人々の苦労や工夫を知り、私たち一人一人が「油を流さない。」「洗剤を使わない。」などの心がけが大切であることが理解できた。
- ・ツルレイシの栽培（4年・理科）
学年花壇でグループで育て、種取りまで観察を続けた。
各自が自宅でも栽培に取り組み、学校の育ち方と比較しながら、学習をすることができた。

ウ高学年

- ・米作り体験活動（5年・総合的な学習の時間）
バケツを使って一人一人が稲を育てる「バケツ米作り」では、籾の観察から土作り、苗植え、水の管理、稲刈り、脱穀、籾すりなどの一連の活動を行い、米作りの大変さを知る一方で、環境や人との関わりに問題点を見出し、調べる活動に発展していった。また、御所ヶ丘小、大井沢小、松前台小による里山での米作り体験活動に参加し、環境や人との関わりについて関心を高めることができた。
- ・地球環境について考える（6年・理科）
地球環境について書籍やインターネットで調べ、自分たちにできることは何かを考え、まとめた。

3 考察

- (1)地域の公園や学区内の自然を生かし、生活科や理科や総合的な学習の時間における体験活動を通して、自然に親しむ楽しさや自然のすばらしさを感じとらせることができた。
- (2)GTや学習ボランティアの活用、または太陽光発電システムや浄化センターの見学などの校外学習を通して、より専門的で充実した内容の活動を行うことができた。

4 課題

- (1)学習したことから自分たちにできることは何かを考え実践化を図る。日々の清掃活動や給食の食べ残しをしないなど、まずは身近なところからの実践を心がけるようにする。
- (2)教科、道徳、特別活動と環境教育の関連を明確にし、効果的な学習形態の工夫を考える。

環境教育の実践

守谷市立松ヶ丘小学校 担当 島田 真弓

1 はじめに

本校では、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間など全教育活動を通して、「身近な環境を自分たちの生活と結び付けて深く考える子、生き物や自然を大切に共に生きていこうとする子、よりよい環境作りのために行動できる子」を求める児童像として環境教育を進めてきた。

今年度、実践した各学年の環境教育にかかわる取り組みを述べたい。

2 実践

(1) 各学年の実践

学年	教科・領域	学 習 活 動
1年	生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおの一人一鉢栽培と観察（チューリップの栽培と観察） ・あさがおの種を取った後のつるでリース作りをした。 ・学年の畑にキャベツを栽培し、観察した。 ・松ヶ丘公園に春と秋にでかけ、自然の移り変わりを観察をした。 ・校庭や学校の周りで、バッタとりをして自然に親しんだ。
2年	生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺や校庭で季節毎に花や虫を観察した。 ・野菜の栽培と観察・記録をした。 （ミニトマト・キュウリ・ナス・ゴーヤ・パプリカ・さつまいも・スイカ・枝豆・イチゴ）
3年	理科 社会 まっかぜタイム（総合）	<ul style="list-style-type: none"> ・オクラ・ホウセンカの栽培と観察・記録をした。 ・スーパーマーケットの見学で、パック・空き缶・ダンボールのリサイクルの大切さについて学んだ。 ・総合的な学習「さつまいもを育てよう」において、さつまいもの栽培と観察をし、さつまいも汁の試食をした。
4年	理科 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ツルレイシの栽培と観察・記録をした。 ・「ゴミのゆくえ」を学習し、家庭でのゴミの出し方を調べたり、分別の仕方を学んだ。3R（リサイクル・リユース・リデュース）の大切さについて学習した。 ・「水道事務局」を見学し、水の大切さを知った。また、水がきれいになっていく過程を学んできた。
5年	理科 社会 家庭科 まっかぜタイム（総合）	<ul style="list-style-type: none"> ・インゲン豆の栽培と観察・記録をした。 ・教科書やインターネットを使い「自動車を作る工場」で、環境を守るためにハイブリットカーが開発されていることを学んだ。 ・私たちの国土と環境について学んだ。 ・「くふうしようかしこい生活」で環境にやさしい生活を学んだ。 ・「田んぼからはじまる、自然の不思議」をテーマに、稲作に関する体験活動をし、自分たちを取り巻く環境について課題意識を持ち、その課題を解決していこうとする学習に取り組んだ。 ・収穫した稲わらを使って、親子で正月飾りを作った。
6年	国語 理科 家庭科 まっかぜタイム（総合）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境についてのパネルディスカッションで50年後、100年後の環境について予測し、意見交換を行った。 ・「生き物の暮らしと自然環境」で、生き物と空気・水・食べ物との関係について学習した。 ・「くふうしよう・季節に合う暮らし」では、きれいな空気の取り入れ方について学んだ。 ・「まかせてよ、きょうの食事」の調理実習では、油のついたフライパンを古紙でふき取ってから洗ったり、少ない洗剤で汚れを落とし、排水を汚さない工夫を学んだ。 ・「守谷の自然環境」について調べた。市街地のわりには、たくさんの野鳥が集まることがわかった。
特別支援学級	生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜と冬野菜の栽培と観察・記録・収穫・試食をした。 （きゅうり・なす・カラーピーマン・トマト・ミニトマト・カボチャ・ジャガイモ・落花生・ポップコーン用トウモロコシ・にんじん・オクラ・えだまめ・さつまいも・たいこん・かぶ・ほうれんそう・小松菜） ・ヒラタケとイチゴの栽培と観察をした。 ・ワタの栽培をし、ワタ摘みをして糸を紡ぎ、布を織る体験をした。

主な実践活動

《特別支援学級での取り組みから》

- 領域 生活単元学習
- テーマ ワタの栽培に挑戦
- 内容

- 5月 ・ワタの種を蒔く。
・ワタの芽が出る。



- 7月 ・ぐんと草丈が伸びる。
- 8月 ・ワタの花が咲く。
- 9月 ・花の後にコットンボールができる。

- 9月 ・ワタを収穫し、教室内に干す。
- 10月 ・綿打ち弓を作って、ワタをほぐす。



- 11月 ・手でよりをかけて糸を作ってみる。
・作った糸で布を織る。

特別支援学級では、年間を通してさまざまな野菜を栽培している。そして、その体験を通して自分たちを取り巻く環境について、少しずつ関心を持つようになってきている。

今回のワタの栽培では、普段目にしていないふわふわのワタが、種を蒔いて花が咲き、できた実からワタになること。また、そのワタから糸ができ、布が織られるということを知り、さらに自然への不思議、自然の恵みから生活が成り立っている事に気付くきっかけとなった。

(2) 学校全体での取り組み

《クリーンタウン作戦》

全児童が参加し、通学班のメンバーがそれぞれの通学路と通学路周辺の公園のゴミ拾いを行った。当日は、保護者の方にも呼びかけて一緒に参加していただいて実施した。その後は美化委員会の児童により集めたゴミの分別を行った。



3 考察と課題

どの学年でも各教科、学級活動、道徳、諸行事などのいろいろな場面を通して、環境問題に触れる機会を作っている

低学年や特別支援学級では、直接見たり・触れたり・育てたりと言う活動を通して、自然に親しみ、自然の不思議さやすばらしさを感じることができていると考える。特に植物の栽培では、毎日世話を続けることによって花が咲いたり実がなったりすることに対する喜びや驚きが、児童の心を豊かにしているのではないだろうか。

中学年や高学年では、環境問題を自分の身近なこととしてとらえ、意識するようになってきた。そのため、自分たちにできることは何かを考えるようになってきている。

今後は、今年度学んだことをもとに、さらに意識を高めて、継続的に環境について考えられる児童を育てていきたい。そのためには、より効果的な体験活動を取り入れた年間計画の見直しと具体的な実践活動の工夫が必要と考える。

環境教育の実践

守谷市立守谷中学校 担当 後藤 和代

1 はじめに

本校では、環境教育を実施するにあたり「よりよい環境を求めて、未来を切り開く生徒の育成～生徒自ら学び、考え、行動する環境教育～」というテーマを設定して教育活動を行い、意識が全校生徒に定着しつつある。本年度も、生徒会を中心として、園芸・福祉委員会の活動として校内の美化運動に取り組んできた。今後も、自分達の住む守谷市の環境を基盤として、様々な環境問題に目を向け、積極的に行動できる生徒の育成に努力していきたいと考えている。

2 実践

(1) 教科における環境教育

各教科において、環境問題に視点をおいた題材があり、積極的に環境教育との関連を図るよう努力している。また、道徳でも、自然や生命に対する畏敬の念や奉仕的精神の高揚を目指して年間計画に組み込まれている。

理科

1年「水溶液の性質」

水を汚染する原因と環境について学習する。廃液処理の仕方と理由を理解する。

「植物の生活と種類」

学校や学校周辺の植物を観察し、植物と生えている場所の特徴に関して学習する。

2年「動物の生活と種類」

動物の観察や分類の学習を通して、自然保護や動物保護について考える。

3年「科学技術と人間の生活」

身のまわりの新素材や環境に優しい技術について調べ、資源保護について学習する。

「自然と人間」

地球規模での環境の変化について学習し、自然災害や自然からの恩恵について学ぶ。

社会科

3年「地球社会とわたしたち」

地球環境を守るための世界各国での取り組みを理解する。

技術科

2年「技術とわたしたちの生活」

環境を考慮した技術の学習であることを理解し、製品の製作の際は、環境にやさしいものづくりについて考える。

家庭科

1年「簡単な日常生活の調理」

調理実習を通し、効率よく材料を購入する方法や熱源を使用する方法・食器の洗い方を考えることで、環境に配慮することを学習する。

(2) 特別活動他における環境教育

主な活動計画	備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 クリーン作戦実施の決定 ・校内緑化運動 プランターの設置 ・校内環境美化活動 ・体育祭 校舎内外の清掃, プランターの設置 ・守谷駅構内における挨拶運動 ・朝のあいさつ運動 ・全校クリーン作戦 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年 園芸委員会 全学年 全学年 生徒会役員・生活委員 生徒会役員・学級委員・生活委員 全学年

(3) 50周年関連事業における環境教育

守谷中学校統合50周年にあたり、全生徒で切符アートを制作。関東鉄道守谷駅で回収された切符を再利用し、表裏の色の違いを活用して旧校舎をモチーフに290cm×360cmのパネルに仕上げた。



【50周年切符アート除幕式】



【全校クリーン作戦】

3 考察

各教科における学習の中で、生徒の身近な問題、自分たちの生活に直接関わる問題を取り上げることは、知識を高めるだけでなく、日常生活の意識向上につながると思われる。また、本年度も生徒会の企画のもと、全校生徒による地域のゴミ拾いを行った。5月～10月までは月に1度の割合で校内の除草作業や清掃活動を行い、環境整備に取り組んだ。継続した活動により、自分達の学習する環境を整えることへの意識が高まってきたと考えられる。守谷市の玄関口である『守谷駅』で地域の人々へ向けての挨拶運動や朝のあいさつ運動を行うことは、人的環境作りという点で、今後も継続できる活動であると考えられる。なお、切符アート制作の本来の趣旨は、愛校心を培い、本校の伝統を振り返るものであったが、鉄道の切符を再利用するという観点で、環境にも配慮した活動につながる事ができたと考えられる。

4 課題

環境教育と各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図るために、年間計画の見直しや教師の環境教育に対する意識を高める努力をしている。今後も、無理のない計画作り、日程作りに力を注ぎ、学校で行われている環境教育への取り組みを基盤として継続した活動を行っていききたい。また、今年度は、50周年記念と関連し、地域からの協力を得た活動ができたが、地域の環境を活用した活動や、地域の人材を活用した体験活動を取り入れるなど、環境問題に対する意識をさらに高めていけるような学習内容の充実を図りたい。

環境教育

守谷市立愛宕中学校 担当 伯耆田 文彦

1 はじめに

「環境や環境問題に関心・知識を持ち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識のうえに立って、環境の保全に配慮した望ましいはたらきかけのできる技能や思考力、判断力を身につけたいと考えた。よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動がとれる態度を育成する。」という環境教育の目標のもと、教科・領域から関連の深い単元・分野を選び出し、授業の中で環境問題や環境保全について取り上げ環境問題の大切さを学習した。

2 実践

(1) 理科

「植物の生活と種類」 1 学年

- ・「植物の分類」の学習を通して、生物界の多様性について知ることができた。また、自然の中には、人の手によって育てられている植物も多くあることを学習した。
- ・植物の光合成によって植物は地球温暖化の原因となる二酸化炭素を一時的に蓄えることができる事を学習した。また、植物を増やすことで二酸化炭素の増加を防ぐことができる事を学習した。

「自然と人間」 3 学年

- ・地球上にはたくさんの生物が住んでいること、その生物は人間も含め互いに密接に関わりながら生活をしていることを学習した。人間の生活は自然に様々な影響を与えていること、その影響は人間の生活に跳ね返ってくることを学習した。

(2) 家庭科

- ・環境を考えた消費生活を工夫

むだな消費をしないよう、今使えるものを大切に使うことや、資源を大切にするため、再利用できるごみは分別して出すこと、むだなエネルギーを使わないように暮らし方を工夫することなどを学習した。エコバッグ作り、廃油での石けん作りなどに取り組んだ。

(3) 技術科

「技術とわたしたちの生活」 2 学年

- ・製品の設計・製作

限りある資源を無駄なく有効に使うために、設計の仕方や製作の仕方について学習した。杉の間伐材などを利用し、リサイクルを心がけた作品制作を行った。

- ・エネルギー資源の変換と利用 3 学年

限りあるエネルギー資源についての有効利用の仕方について学習した。

(4) 道徳

- ・自然愛護に関する題材を取り上げ、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を育成する。生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する心を育てた。

(5) 特別活動

・委員会活動

「整備委員会」

少しでも再利用の効率をよくしたり、ごみを処理するときの環境への影響を考え、ごみを分別して捨てるよう呼びかけた。

(6) ボランティア活動を通しての環境教育

・野鳥の森散策路（遊歩道）ボランティア清掃・散策路整備

守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」が中心となって開通させた遊歩道の、枯れ枝運びやごみ拾いなどのボランティア活動を実施した。また、今年度は南北ルートを結ぶ「中央東ルート（約38m）」の整備を進め、湿地の中に浮き橋（フローティングブリッジ）を完成させた。

フローティングブリッジには、守谷市の工場などで出た廃材を利用し、限りある資源の再利用を図りながら、自然環境を考え、重機などの機材を使わず人の力のみで完成させることができた。

この活動が、米国最大級の金融サービス機関が95年からアメリカにて開始した青少年を対象としたボランティアを支援する活動に認められ、ボランティアスピリット賞の関東ブロック賞と、全国でも8校しか選ばれない**Spirit of Community** 奨励賞に輝いた。活動の内容が新聞紙や雑誌に掲載され、地域の方々からの声かけも多くなり、生徒たちは自分たちの活動に自信を持ち、「野鳥の森少年団」として守谷市の自然を守っていくという意識の涵養が図れた。

ボランティア活動を通し、生徒たちの中に、地球の環境を守っていくためには単発的な大きな取り組みを行うのではなく、一人一人が環境を意識し、小さな取り組みを継続していくことが大切だという意識が芽生えた。



3 考察・課題

私たちを取り巻く環境は現在多くの問題を抱えている。この問題を解決していくためには、様々な角度から環境問題についてのアプローチをしていかなければならない。教育の現場である学校においても、特定の教科だけではなく、すべての学習活動を通して環境に関する基本的な知識を生徒たちに育む必要がある。

本校の生徒たちは、各教科をはじめ、委員会活動などの学習活動を通じて、環境問題に関する知識的な情報には多く接する機会がある。しかし、実体験を伴う活動が少ないこともあり、生活する上での実践的な活動には結びつくことが少ないように思われる。今後は「野鳥の森」での活動を多く取り入れ、実体験が伴った活動を継続していくことで現在の環境を守り、さらにより良いものにしていくという心の涵養を図っていきたい。

環境教育の実践

守谷市立御所ヶ丘中学校 担当 蓑輪 修身

1 はじめに

科学技術の急激な進歩，産業の発達，人口の爆発的增加等により，我々の生活環境は年々悪化してきている。最近では地球温暖化によると思われる世界的な異常気象や異常現象が起こっている。最近，筑波山頂にある {筑波山気象観測ステーション} の過去百年間のデータから，筑波山で0.7度気象が上昇し，温暖化が進んでいることが新聞に掲載されていた。

学校教育現場においても，環境教育の重要性が叫ばれ，全教科・全領域の中で少しずつ実践が行われるようになってきている。

本校では自分たちの生活を振り返り，その中でいろいろな問題に気づかせ，理解させ，その解決方法を探る学習を総合的な学習の時間を中心に行っている。

しかし，学校教育だけでは不十分であり，家庭や地域を巻き込んだ活動が環境教育の充実につながると思われる。今年度，本校では下記のような実践を行った。

2 実践

(1) 守谷市の小中連携教育の一環として出身小学校の6年生との共同奉仕作業

本年度で8年目になる。

- ・御所ヶ丘小学校学区ではイチョウの落ち葉掃き班，トイレ掃除，さらに苗の植え替え等を行った。
- ・松前台小学区では落ち葉掃き，6年生との部活動懇談等
- ・大井沢小学校区は学習ボランティアとして1，2年生に算数を教えた。6年生には中学校紹介及び小グループでの懇談

(2) 特別活動の実践

- ・美化委員会による石油庫内の整理整頓，環境ポスターの作成及び掲示
- ・緑化委員会による緑のはねの募金活動，校内美化活動，昇降口前ロータリー及び正門前の花壇づくり
- ・生活委員，生徒会役員による朝の挨拶運動（正門前）これも継続中である。生徒会主催のクリーン作戦は2回行った。



クリーン作戦



朝の挨拶運動

(3) 教科での実践

2年生 技術・家庭科における環境教育では資源の有効利用の観点から集成材を知ることにより資源を有効に利用している技術を学んだ。また、自分の製品設計をもとに、消費者として必要最小限の材料を購入し、その材料で製品を製作した後、残った場合は他の製品を製作する場合に利用したり、飯ごう炊飯の燃料としたりするなどした。

(4) 総合的な学習の時間の実践

3年生では今年度<21世紀を作る>というテーマで行った。なかでも環境問題を取り上げた生徒数はクラスによって異なるが以前よりはだいぶ少なくなっている。特に地球温暖化、及び酸性雨、再生紙、エコロジー、新エネルギーについて扱った生徒が多かった。

2年生では<共に生きる>というテーマで行った。今年度は食育が中心のため環境についてあつかった生徒は少なかった。

1年生では<自己を見つめる>というテーマで行った。そのため、特に環境についてあつかった生徒はほとんどいなかった。

3 考察

学年ごとのPTAの親子奉仕作業(各学年ごと学期をずらして実施)は土曜日、日曜日に行っているため、部活動や大会、練習試合等とぶつかるときもあるが、部活動によっては練習時間をずらして、奉仕作業に参加できるように配慮している。今年度はインフルエンザもなく全学年とも、有志による奉仕作業ということで行われた。

各学年とも多数の参加者がみられた。また、地域社会で行われる夏祭り後のクリーン作戦への参加者は生徒会本部、図書委員会、広報委員会、美化委員会、生活委員会、給食委員会、学習委員会、緑化委員会および担当教師等、多数の参加がみられた。また、生徒会本部が呼びかけた利根川左岸クリーン作戦は本年度は参加募集を募ったところ、60名を超え、3月に行われる予定である。

4 課題

地球温暖化問題は世界各地、特に先進国といわれる国々の経済の発達によって起こることが多い。地球温暖化問題で生徒が日頃、取り組めることは、環境に関する身近な問題を1つ1つ洗い出し、それらを学校全体、学年、個人で継続的に取り組んでいき、さらに、地域社会に広げることが大切であろう。身近な取り組みの1つとして、各教室の電気の消し忘れなどを少なくする運動の徹底化、充実化も大切なことであろう。それとともに、地域社会も取り込んだ、清掃活動等の発展を図りたい。

環境教育の実践

守谷市立けやき台中学校 担当 熊谷 潤

1 はじめに

本校では、まず環境問題についての意識を高めることが重要であると考え、次の3つの視点を掲げて実践している。

『環境教育3つの視点』

- さまざまな環境問題の現状を知り、環境問題への関心を高める。
- 自然環境のしくみについて理解を深め、地球環境を大切にしていこうとする意識を高める。
- 自分たちにもできる環境保全策を考え、実践していこうとする態度を育てる。

本年度も、各教科での実践をはじめ、道徳、生徒会活動等の特別活動でも環境問題に取り組んだ。

2 実践について

(1) 各教科における取り組み

【国語】

- 1年「ハチドリ不思議」や「百二十年の孤独」という説明的文章で、ハチドリやカメを例にした生物の生態と気候の変動、乱獲、環境問題が種の絶滅を招きかねないという内容について、自然環境に目を向けさせながら読み取りを行った。
- 2年「立場を決めて話し合おう」の単元では、身の回りの環境問題について、賛成、反対それぞれの立場のもとで意見文を発表し合い、環境への取り組み方への考えを深めた。
- 3年「テクノロジーと人間らしさ」という論説文では、便利な生活を支える技術と自然環境とのつながりを意識して読み取りを行った。

【社会】

- 1年 地理分野「身近な地域の調査」で、東京都のゴミ問題を題材として、ゴミの分別や処理の方法について学習した。
「世界各地の人々の生活と環境」で、地球温暖化をテーマに、海面上昇によって国が消えてしまう危機に直面する状況を学習し、自分達の今後の生活の仕方考えた。
- 2年 歴史分野「高度経済成長期」では、過疎・過密の引き起こす問題点について、花粉や工場の排気等による公害問題や、過疎地域での生活環境の維持についての理解を深めた。

【理科】

- 1年「植物の生活と種類」で、学校や周辺の植物相についての理解を深めた。
- 2年「動物の生活と種類」で、絶滅危惧種に指定された動物について調べ、動物の生活する環境や自分達の生活のおよぼす影響について考え、理解を深めた。
- 3年「科学技術と人間の生活」で、環境を守る技術について学習した。また、プラスチック素材のサンプルを活用し、実生活でのプラスチックに目を向け、その長所や短所を考えさせた。

【英語】

- 2年 ” A park or Parking Area?” の単元で、住環境の整備について考えさせた。
” Can anyone hear me?” の単元で、ごみ問題についての読み取り学習を行った。

【美術】

下水道ポスターの制作を通して、水資源の利用に対する意識を高めた。
校内の廃段ボールを再利用し、学校行事の際の装飾等に活用した。
工芸作品の廃材を利用して、他の作品制作につなげている。

【技術】

ものづくりの授業の中で、木工実習で残った木材を再利用し、資源を無駄にしないことを学習した。

【家庭】

2年「わたしたちの生活と住まい」の単元で、住居が環境と密接なつながりがあることを学習した。
気候や風土に応じた各地の住居の特徴、洗剤の選び方やシックハウス症候群、ユニバーサルデザイン等、環境に配慮した住まい方を考え、理解を深めた。

(2) 道徳・特別活動等における取り組み

【道徳】

屋久島の縄文杉をはじめとした世界遺産や、北極・南極圏に見られるオーロラ等、壮大な自然を題材とした教材に触れながら、大自然への畏敬の念や、自然の風景を大切にする気持ちを啓発した。

【特別活動】

生徒会ではクリーン作戦を行い、毎週水曜日の朝、学校周辺の清掃活動を行った。

ボランティア委員会ではペットボトルキャップ集めを全校生徒に呼びかけ、約 16kg のキャップを集めた。市役所生活環境課を通して、世界の子どもたちにポリオワクチンを送った。ゴミ集めだけでなく命を守る活動にもつながっていることを知り、環境に対する意識の高揚につながった。

環境整備委員会では、けがきを使ってT字ほうきのゴミ取りを行い、道具の再利用を意識させた。

(3) 特別支援学級における取り組み

畑で野菜を栽培し、発芽の様子や成長の様子を観察・記録を行った。また、収穫することで植物を育てる大変さを学ぶとともに、収穫することの喜びを味わった。

3 考察

「エコ」という単語が日常生活の中でも当たり前になるようになった。特に「エコ」を意識した商品は様々なアイデアが生まれ、次々に売り出されている。取り組みの実践からもわかるとおり、環境に関する活動は学校生活の中でも身近な形で日々実践されている。

簡単に手に入れることができる半面、物であふれた時代であると言い換えることもできる。ゴミが増えないように、物を長く大切にすることにも目を向け、「エコ」の意味を考えさせるきっかけ作りをしていきたいと考える。

4 今後の課題

環境教育は、さまざまな知識が必要だが、環境を大切にするための具体的な体験活動を併せて行うことでより効果的になると考える。また、教職員も日頃から資源を大切にすることをもち、あらゆる場面で生徒に範を示したいところである。この問題は家庭での習慣や保護者の意識によるところも大きく、生徒が家庭で保護者に呼びかけることにつながるような学習も取り入れ、意識を持続させるとともに、意識を高めていけるようにしたいと考える。教科によって視点はさまざまであるが、教科の輪を広げ、総合的に環境問題に取り組んでいけることが重要であろう。